

企画提案書

◆市民合意形成の手法とプロセス

市民の共感を得た計画とするため、どのように市民意向を把握しようと考えるか。

5番説明者

① まちの中心を見つめ直し、市民と共に将来の姿を、共感を得るための 公開ワークショップ

- 広く市民の参加を募り、整備内容を共有するためワークショップを開催します。
- ワークショップは全6回の開催を予定し、次のような内容で実施します。

- 第1回：地域の現状と問題点を把握しよう！（地域の点検タウンウォッチング）
- 第2回：箕面駅周辺の将来の姿を考えてみよう！
- 第3、4回：整備内容の検討（デザインゲーム）
- 第5回：施設の維持管理の進め方、地域を育んでいくために
- 第6回：整備内容の確認（検討結果の報告会）

- ワークショップは、みのおサンプラザ1号館地階フリースペース（タウンインフォメーション横）を利用し、公開型での実施を検討します。
飛び込み参加OK！

- タウンウォッチングやデザインゲームなど、多彩な手法で実施します。

- 整備した後の施設や地域の維持管理方法、まちの『顔』として、より良いものにさらにグレードアップしていくための市民の関わり方などについても議論します。

- 参加者は、一般公募のほか、駅利用の通勤通学者、地域に根ざした活動を展開する市民団体（箕面シンボルロードまちづくり協議会、箕面まちづくり協議会推進プロジェクト会議など）のメンバーの参加も呼びかけ、多様な視野で検討を進めます。

- ワークショップの企画・運営にあたっては、中心市街地活性化まちづくりを展開するTMO箕面わいわい株と協働で実施します。

② 市民（消費者、利用者）、来街者の現状に対する 考え方、あるべき姿への想いを把握するための 各種アンケート調査



市民（消費者、利用者）、来街者、地域商業者などの
関係する全ての主体が、『交流舞台』箕面駅周辺に
愛着を持ち、育んでいくために…

まちの『交流舞台』にスポットライトを当て、 様々な手法により共感を得る場を提供！

- 市民（消費者、利用者）や来街者が感じる箕面駅周辺の問題点や課題を把握し、そして、箕面駅周辺のあるべき姿を探るためのアンケート調査を実施します。

- アンケート調査は、次の3つの手法で実施します。

①地域住民（地元商業者含む）アンケート

地元自治会や商店会などを通じて、地域に最も身近な居住者、地元商業者の意向把握を実施します。

②利用者・来街者アンケート

箕面駅周辺で開催されている箕面山七日市や四季イベントなどの集客イベント開催時に合わせて、買い物客や観光客を対象とした街頭インタビュー調査を実施します。

また、8月初旬にオープンが予定されているタウンインフォメーション“みのたん”的オーブニングイベント開催時にも街頭インタビューを実施し、広く意見の聴取に努めます。

実施予定：7／7、8／7 箕面山七日市

8月初旬 箕面まつり、四季イベント、タウンインフォメーション
オープニング

③駐車場利用者アンケート

指定管理者である箕面都市開発㈱の協力を得ながら、市営第一駐車場の利用者（回数券購入者など）を対象にした意向調査を実施します。

- 様々な集客イベントや、タウンインフォメーションオープニングといった中心市街地活性化、駅周辺整備の大きな流れに乗って実施することで、今後の駅周辺整備に関するPR効果もより大きなものになります。



③ 明日の箕面を担う、子どもたちの心にも、愛着や関心を芽生えさせるための 絵画コンクール等の各種イベント

- より良い箕面駅周辺としていくためには、明日の箕面を担う子どもたちの関心を集め、愛着を持ってまちに接してもらうことがたいへん重要です。

- このために、TMO箕面わいわい株とも連携して、箕面まつりや四季イベント（夏まつり、秋まつり）、タウンインフォメーションオープニングイベントとタイアップしたイベントを開催し、子どもたち（もちろん大人も含めて）にも箕面駅周辺のまちづくりについて考えてもらう場を提供していきます。

①絵画コンクール

多くの子どもたちの参加が予想される8月初旬のタウンインフォメーションオープニングイベント開催時に、「お絵かきブース」を設置し、箕面駅周辺のまちの将来像を描いてもらうイベントの開催を企画します。

また、一定の募集期間を設けた絵画コンクールの開催も合わせてPRし、広く子どもたちの将来への想いを絵に描いてもらうイベントの開催を企画します。



②パネル企画展

四季イベントで開催された「箕面今昔物語」パネル展を、TMOと協働で継続的に開催し、箕面駅周辺の昔を振り返ることで、これからの姿を考えるきっかけを提供します。

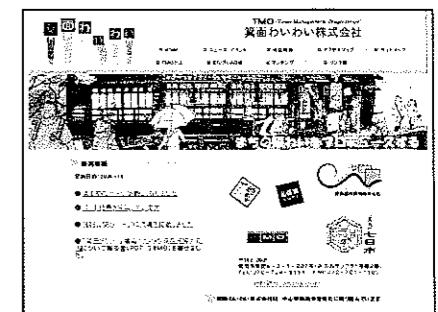
④ 検討の経過を広く周知し、共感を得るための ホームページ、ニュースレター等の 発信による情報の共有

- これからのまちづくり、公共施設整備にあたっては、検討の経過や結果をリアルタイムに、しかもオープンにすることで、情報を共有し、市民の共感を得ていくことがたいへん重要です。

パブリック・コメント以外にも、次のような手法で、経過報告の周知に努めます。

①ホームページによる情報発信

箕面市ホームページ、TMO箕面わいわい株ホームページなどの既存情報サイトを活用してリアルタイムに、ワークショップ開催結果や懇話会開催結果、アンケート調査結果速報などの情報を発信し、多くの市民、関係者への普及啓発を検討します。



②ニュースレター配布による情報発信

ワークショップや懇話会の参加者、イベント参加者、アンケート回答者、地元自治会、地元商業者などに対しては、ニュースレター「（仮称）箕面駅周辺整備まちづくり通信」を作成し配布するなど、検討の経過を随時発信していくことを検討します。

- これらの情報媒体は、同時にタウンインフォメーションスペースでも配布を検討します。

- これら情報媒体の検討にあたっては、次年度以降に実施が予定されている設計や施工の経過などについても継続的に情報発信できるようなスタイル、構成となるように工夫していきます。

企画提案書

◆業務の進め方と着眼点

業務作業を進めるにあたり、何に主眼を置きどのように進めて行こうと考えるか。

目標

自然とにぎわいと活力に満ちた

交流舞台の共創！

5つのキーポイント

観光客を、まちへと引き込むための
魅力づくり**1**

阪急箕面駅と箕面大滝の往復が中心であった観光客の流れを、商業ゾーンに引き込む仕掛けづくり

2市民が憩い、集える場にふさわしい
魅力づくり

市民の日常生活(日々の買物、通勤通学、交流)の舞台である箕面駅周辺を、憩いの場としての魅力を高める仕掛けづくり

3箕面駅周辺の商店街活性化の
取り組みと観光地の相乗効果を向上

箕面駅周辺の本通り商店街や桜通り商店街、みのおサンプラザなどの商店街活性化と観光地としてのメリットとの相乗効果を高める仕掛けづくり

4箕面駅周辺で既に進みつつある
施設整備との一体性の確保

箕面駅周辺で進められるみのおサンプラザ再生や公共施設再配置など、中心市街地活性化に係る一連の施設整備との一体性を確保する仕掛けづくり

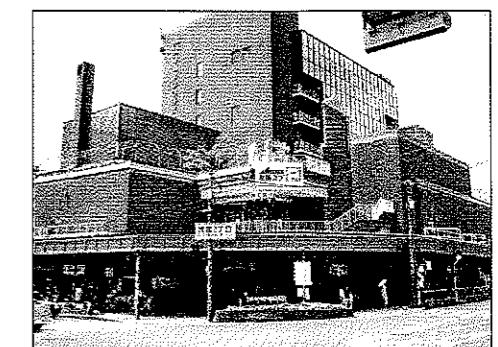
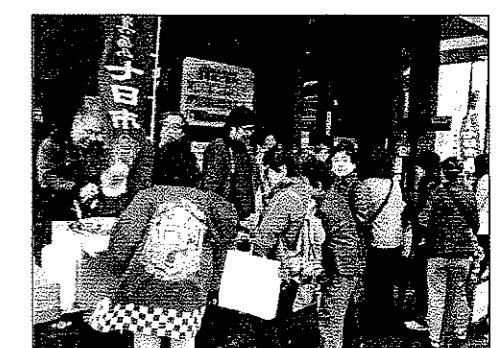
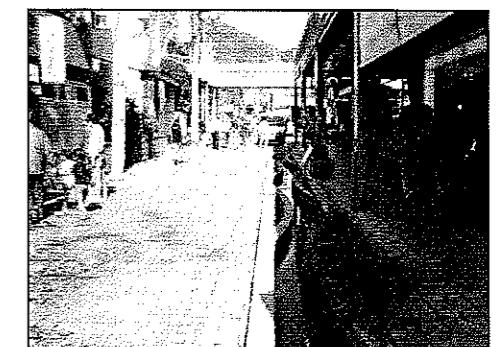
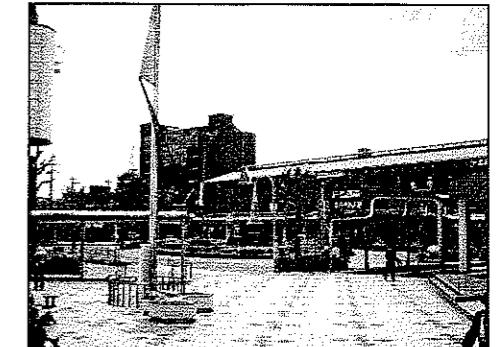
5市民や地域商業者とともに創り上げる
意識の醸成と仕組みづくり

市民団体や地域商業者、TMOなどの取り組みを大切にし、まちづくりのシンボルとしてさらにグレードアップさせる仕掛けづくり

具体的な進め方

【検討すべき内容】

- ・動線の明確化（サイン、ストリートファニチャー、アーケードなどの歩行空間のあり方、駅前広場・噴水施設の改善）
- ・観光地と関連づけた魅力ある商業空間の形成（みのおサンプラザ2号館などの駅から商店街にかけてのテナントミックス、空き店舗対策、個店の特徴づくり）
- ・歩いて楽しめる空間の形成（親水施設、休憩施設の改善、バリアフリーなどの歩行空間のあり方）
- ・利便施設の再生（老朽化した駐車場・駐輪場のファサード修景）
- ・商業活性化の取り組み
- ・コミュニティ・アイデンティティ、コーポレート・アイデンティティ（CI）
- ・市民や市民団体、地元商業者、TMOなどの関係主体の関わり方、中心市街地活性化協議会の可能性 など



【検討の手順】

1. 調査

- ・駅周辺に関する過去の調査結果、既存の各種整備計画、TMO構想などの内容を再度検証
- ・地域住民、利用者・来街者、駐車場利用者アンケートなどの意向調査の検証・分析
- ・駅前広場や駐車場・駐輪場などの利便施設、交通安全施設など既存施設の実態把握
- ・商店街活性化の取り組み、市民団体の取り組み、集客施設の取り組みの把握

2. 構想・計画

- ・地域イメージ(観光地と商業地、街なか居住空間など)の再整理、現状評価
- ・ワークショップや懇話会などの合意形成メニューから得られた意見の整理と具現化方策の検証
- ・施設機能・動線の整理と一体的な整備イメージ及び整備計画の構築

3. 基本設計

- ・施設計画図の作成、概算事業費の整理

4. 推進計画

- ・事業メニュー、事業スケジュールなど、5W1Hの整理
- ・駅周辺で活動する市民団体や商業者、TMO、地域住民、行政など関係する主体の役割分担
- ・維持修繕方策の整理

【検討にあたっての留意点】

- 調査結果や多様な意見を踏まえつつも、昨今の財政状況などにも配慮し、大幅な施設の“改造”ではなく、現在のストックをうまく活用したベストプランを提案します。
- ワークショップや懇話会などの合意形成の過程では、与条件を明らかにしながら検討を進め、実現性(技術的にも、費用的にも)について専門的な見地から提案します。
- 本業務に基づく整備計画が終着点ではなく、施設整備後の維持修繕方策も見据えたプランを提案します。そして、市民の手による段階的なグレードアップが展開されるように、市民によるまちづくりの展開方策や体制整備について提案します。